

ふたりのコラム

July 17, 2020

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイプルキッズ 施設長 新井利枝

《3・4・5 歳児》

本日で、1学期の保育が終了しました。来週月曜日から2日間、夏期保育（前半）となります（後半は8月）。

さて、1学期は、保育者と子ども、そして、子ども同士がよい関係性を築く時期です。今年度は、限られた時間の中で、内容や場づくりの工夫をしながら各クラスの保育を行ってきました。

1学期の間、友達の刺激を受けながら成長した様子をお知らせします。

製作コーナー
先生のそばで
安心してモノ作り



《3 歳児》

保育者や友達のそばで安心して、自分の遊びに取り組めるようになってきました。

自分でモノと関わることができることは、遊びの自立の上でとても大切なことです。遊びの自立と生活の自立はそれぞれが大切であり、関連しています。3歳児では、じっくり一人遊びができる事と、友達と一緒にの楽しさを感じる事の両面を大切にしたいと考えます。これらが今後、工夫して遊んだり、友達と協力する気持ちの源になったりしていきます。



《4 歳児》

友達と一緒に山を作る、穴を掘るなどの共同作業を行うようになってきました。今後、協力し合って活動していく楽しさにもつながっていきます。また、乾いた穴に水を流すとどんどんしみていくけれど、水が満杯になるとしみこみにくくなることなど（科学的探究の芽生え）を、体験から学んでいきます。

砂場で
大きな川作り



東山山荘
での書道



《5 歳児》

室内外で友達とお店屋さんごっこや鬼ごっこなど、活発に遊んでいます。一方、この書道のように、“静”の時間を過ごす活動もあります。この場所（東山山荘）は、250年前の古民家を移築したものです。日本古来の梁（はり）や白壁など、日本文化を肌で感じてほしいと願っています。また、文字に関心を持つきっかけの一つになり、文字には書き順があるんだということにも気づいていきます。これから世界の人たちと交流しながら生活していくかもしれない子どもたちですが、自分が育った国の文化を語れる人になってほしいものです（やきものの窯もそのような意味があります）。

VUCA 時代をどう生き抜いていく？

VUCA（ブーカ）V：変動性、U：不確実性、C：複雑性、A：曖昧性の頭文字を取った言葉

異常気象 九州を中心に本州を横断して長い間停滞した梅雨前線の影響で、各地に大きな被害が及んでいます。県内でも、今年の台風 19 号の爪痕が残り、崩落した橋や堤防の復旧作業が追いついていません。この長雨の後には台風の時期を迎えてしまいます。

環境破壊 7/1 からレジ袋が有料化されました。すでに、マイバッグの徹底をされている方も多いかと思いますが、袋一つで大きな変化はないかもしれません。しかし、ひとりひとりが意識する・・・ということは大きな力に繋がることだと思います。レジ袋のことをきっかけに、親子で地球環境のことを話してみてもいいでしょうか。※園では、年齢にあった伝え方をしていきます。



担任が話題にする
と・・・
「ぼくのうちも使っ
てるよ！」

プラスチックは、非常に便利な素材です。成形しやすく、軽くて丈夫で密閉性も高いため、製品の軽量化や食品ロスの削減など、あらゆる分野で私たちの生活に貢献しています。一方で、廃棄物・資源制約、海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化などの課題もあります。

私たちは、プラスチックの過剰な使用を抑制し、賢く利用していく必要があります。

（経産省 HP より）



異常気象、猛烈台風、私たち人類にとって脅威となる、地球規模の環境問題。

地球温暖化、オゾン層の破壊、熱帯林の減少、開発途上国の公害、酸性雨、砂漠化、生物多様性の減少、海洋汚染、有害廃棄物の越境移動・・・今、目まぐるしく環境が破壊されています。

不安定な天候や地震などの災害、そして新しいウイルスの出現・・・など、簡単に答えが見つからない想像をはるかに超えた事象が次々と起こってきています。私たちは、そして子どもたちはどのようにこれからの時代を生きていかななくてはならないのか・・・。

これからは、どれだけのことを暗記したかという今までの学力のほかり方ではなく、膨大な情報量の中から、必要な情報を選び、それを元に考えていくことが求められてきます。その力はどのように育っていくのか・・・。

その基礎が、『遊び』にあります。

今まで何度も伝えしてきましたが、遊びの中で、知的好奇心を膨らませ、心揺さぶられながら、「不思議だな」「なんでだろう」「試してみよう」「調べてみよう」＝疑問→思考（および調査）→試行・・・というサイクルから思考が深まり、『遊び』は無意識の中で『学び』を深めていきます。子どもは遊びたいから遊び、結果的に多くのことを学んでいくのです。私たちは、そのような『遊び』を大切に日々の保育を行っています。



《最後に》

みなさんにお願ひです。このコロナ禍で、入園希望者の見学を6月いっぱい受け付けておりませんでした。7月より、見学希望者の対応を行っています。8月23日（日）には、入園説明会を行います（詳細はHP）。実際、園に通われているみなさんの声が重要です。お近くに、入園を考えている方がいらっしゃいましたら、ぜひお声掛け下さいますようお願いいたします。

（文責：中田）

《0・1・2 歳児》

なかなか梅雨が明けず長雨が続き、あちこちで河川の氾濫などのニュースを見るたびに胸が痛みます。一日も早い復興を祈るばかりです。また、新型コロナウイルスの感染も再び広がりをはじめると、予断を許さない状況が続きます。これからも引き続き、新しい生活様式を取り入れながら、感染予防の徹底を意識していきたいですね。

さて、7月から通常保育になり、メイプルキッズでも子ども達がそろって毎日にぎやかに過ごしています。新入園児の子ども達もすっかり園生活になれ、周りの友達の真似をしながら自分でできることも増えてきました。また、コロナウイルス感染対策として、密を避け、できるだけ戸外で遊べるような工夫もしてきました。子ども達はもともと身体を使って遊ぶことが大好きなこともあり、日々いろいろなことにチャレンジする姿も見られていました。



0 歳児、絵本に興味津々、自分でめくれるよ。



1 歳児、でこぼこなマットの上も上手に歩けるよ！



片方の手で押えながら積むことも・・・
真剣な眼差しです。



2 歳児、ボールを追いかけて走るの大好き！



手も上手に洗えるよ。
難しい蛇口にもチャレンジ！

この数ヶ月の間にぐっと成長した子ども達、毎日の遊びを通して、興味、関心を広げています。特に身体を使うことが大好きで、跳んだり走ったりして身体を大きく使う粗大運動や手先を使う微細運動など、様々な身体の動きを遊びの中から習得している真っ最中です。

私自身も小さい頃から身体を使って遊ぶことが大好きでした。昔からおてんばで、兄の後をついて山に探検に行ったり、近所の子ども達と缶けりしたり・・・鉄棒も大好きで、よくスカート回りをしては、スカートを破いて母に怒られていました(笑)。大人になった今でも運動は大好きです(最近は身体の衰えも感じていますが・・・)。きっと、子どものころに沢山身体を使って遊び、その楽しさや有能感を味わってきたからだと思います。

今まさにメイプルキッズの子ども達は身体を使った楽しさを味わっている時期でもあります。

自分の身体を自分の思うように動かすことができるようになって、自分の運動(動き)によって様々な環境の変化を引き起こすことができるという自己決定と、「できた」という有能感、これこそがさらにもっとやりたいと意欲を引き立てるのです。

身体を使うことで体力が向上するとともに、運動コントロール能力も発達していきます。運動コントロール能力は、身体を動かすための知覚、予測、状況判断、意思決定、記憶など心理的な働きが中心となります。1つ目は身体をどの方向に動かすかといった空間コントロール、2つ目はどのような順序やタイミングで動かすかといった時間的コントロール、3つ目はどのくらいの力の入れ具合で動かすかといった力量的コントロール、この3つが組み合わさることで様々な動きができるようになっていきます。

私達大人が当たり前に出来る、走る、跳ぶ、投げる、蹴るなどの運動パターンは、乳幼児期から学童期までに習得するといわれています。

これらは、教えられたり、させられて覚えるのではなく、普段の生活や遊びの中から習得できるものです。

様々な運動パターンを経験することで、運動コントロール能力も高めることができます。こうして考えると、やっぱり遊びって奥が深くておもしろい!! これからもさらに遊びを楽しんで、どんどん成長して行ってほしいですね。

ちょっと、嬉しい話を・・・

あかみ幼稚園、メイプルキッズでは私達保育者だけでなく、様々なスタッフが子ども達とかかわりを持っています。

保育補助や養護教諭、事務スタッフやバス搭乗スタッフ、運転手、厨房の調理員・・・皆それぞれ自分達の仕事を全うしています。

先日のことですが、保育補助のスタッフがトイレ掃除をしていたところ、年中組の子がトイレに入っていました。すると、「おばちゃん、いつもトイレきれいにしてくれてありがとう」と声をかけていました。そのスタッフはすこし驚いた後、「どういたしまして、みんなが気持ちよく使えるようにお掃除がんばるね、そんな風に言ってもらえて嬉しいよ」と応えていました。毎日掃除している姿を見ていて自然と出た言葉なんだろうな〜と、2人のやりとりを見てなんだか嬉しい気持ちになってしまいました。「ありがとう」って言われるのって嬉しいものですね。私自身もいろいろなことに感謝しながら、素直に「ありがとう」って言える人間でありたいなと思いました。



(文責：新井)